


「実戦」で通用する実践的授業を目指して
—授業「ネットビジネス」の試み

2006.8.26
株式会社ネットマン
永谷研一


1

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.




はじめに

- 永谷研一
 - 株式会社ネットマン(東京都)代表取締役
 - 2004年度より東京工学院専門学校講師
- ネットマンについて
 - 「人間らしいIT」の実現を目指す
 - 人材育成・風土構築に特化




Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.




東京工学院専門学校とは

- 東京工学院専門学校
 - 学生数 約2800人
 - 学科構成 建築学科 情報処理科 ITビジネス科 など23学科
 - 「ダブルスクール」
として、産能大学と提携。多重学籍が認められている



Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.



授業「ネットビジネス」

- 「企画編」と「実践編」の二本立て
 - 週2コマ扱い・修得単位「4単位以上」
- 「自由選択科目」
 - 全学科全学年が履修可能
- ねらい
 - 「社長」を講師とし、ビジネスを上のスキルに加え、
ビジネスに参画する態度を養成すること

4

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

NETMAN
Network Management Company

専門学校の実態(前提として)

- 学生のモチベーション
 - － 総じて低い
 - 問題意識の欠如
 - 「学び」への自覚の欠如
 - 「自由選択科目」の「自由」さ
- 基本的な表現力の問題
 - － 授業内で用いた「フィードバックシート」の例(添付資料④)

5

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

NETMAN
Network Management Company

授業のアウトライン


- 受講者数
 - － 履修登録者:35名
 - － 前期アウトプット(課題)提出者:8名
- 講座の進め方
 - － 毎週金曜日「企画編」
 - － その他随時(主に週末)「実践編」
 - Part1(1~4週)
 - － アイスブレイク・座学・プレ企画書ロールプレイ
 - Part2(5~8週)
 - － 実践のための企画・プレゼン
 - Part3(9~11週)
 - － 実践・報告
 - － アウトプット(企画書・プレゼンテーション)を重視
 - － 弊社プロダクト「C-Learning」を用い、連絡・コラボレーション

6


Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

NETMAN
Network Management Company

実践の実績



実践の様子(少年サッカーチームへの取材)



「月次報告会」

- 学生は実践で伸びる
- 最初は、アポを取ることにさえ戸惑いを見せていた学生が、自分でできるようになった
- 月次報告会でも、同様のことが発表されている

7

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.


NETMAN
Network Management Company

「教育の方法と技術」の印刷教材から

- 「コミュニケーションスタイル・インベントリー(01-3-2)」を実施
 - 結果を基にチーム分け
 - 「連絡係」追加
- 「私のプロフィール(01-4)」改変し実施
 - 自社システム「きくすけ」を用い実施(添付資料①)
 - 同種の質問を、前期終了時にも実施(添付資料②)
- 「合意生産型」チーム学習(02-2-1)を目指す
 - 授業時間以外でも参加が見られた
 - 枠を提示しなかったため、学生が戸惑った可能性
- プレゼン時のフィードバック 「評価シート(05-0-2)」(添付資料③)

8

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.




課題とこれから

- 今後の課題
 - 企画をすることはできた、実践が問題
 - 特定の学生への負担増
 - 連絡の徹底
- 後期の展望
 - 学習(企画・実践)の進捗具合を把握し、タイムリーなフォローアップを行う必要性
 - 新たなツールの開発・利用研究

9

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.




「Action LMS」

- 新発想のLMS「Action LMS」
- 日々の学習行動を支援するツールとして…
 - 学習者に一定周期で自分からメールが届く
 - 「課題はやりましたか？」
 - 毎日・毎週・毎月といった周期
 - 「できた/できなかったとはいえない」など行動の履歴を保存
 - 教授者はその履歴を基に、フォローを行う(見える化)
 - 文字通り「学習をマネジメントする」システムです

10


Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

Action LMS画面例



メンバー(学生)側画面の例

行動を振り返り、日記を記入します。
記入後にフィードバックを求めるメールを送信することができます。
「行動」は、教員側から設定する方法の他、学生が自ら設定することもできます。



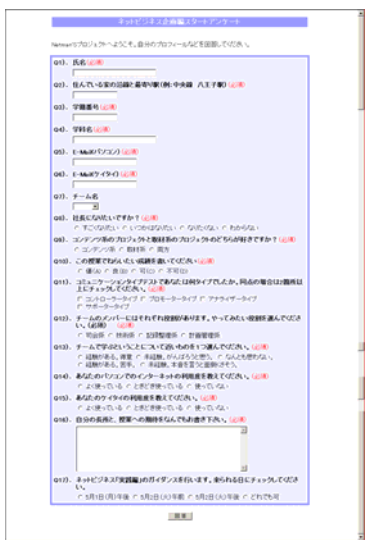
担当者(教員)側画面の例

学生が入力した行動履歴・日記を確認し、必要に応じてフィードバックを行います。

11

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

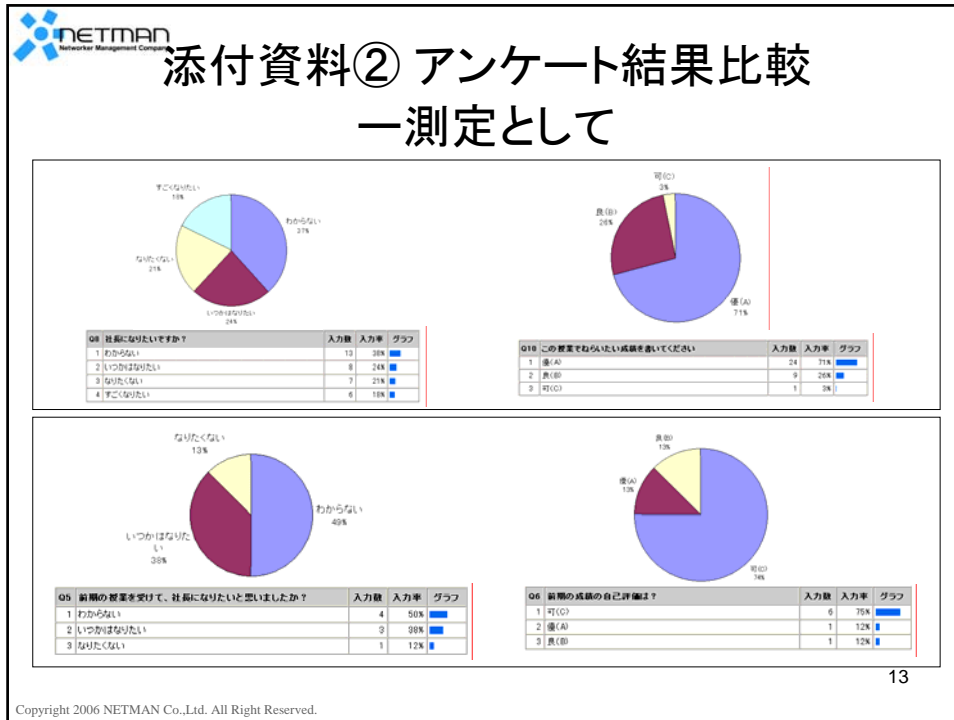
添付資料①「私のプロフィール(01-4)」改



Q1). 氏名
 Q2). 住んでいる家の沿線と最寄り駅(例: 中央線 八王子駅)
 Q3). 学籍番号
 Q4). 学科名
 Q5). E-Mail(パソコン)
 Q6). E-Mail(ケータイ)
 Q7). チーム名 Aチーム Bチーム Cチーム (略)
 Q8). 社長になりたいですか?
 すごくなりたい いつかはなりたい なりたくない わからない
 Q9). コンテンツ系のプロジェクトと取材系のプロジェクトのどちらが好きですか?
 コンテンツ系 取材系 両方
 Q10). この授業でねらいたい成績を書いてください
 優(A) 良(B) 可(C) 不可(D)
 Q11). コミュニケーションタイプテストであなたは何タイプでしたか。同点の場合は2箇所以上にチェックしてください。
 コントローラータイプ プロモータータイプ アナライザータイプ サポータータイプ
 Q12). チームのメンバーにはそれぞれ役割があります。やってみたい役割を選んでください。
 司会係 技術係 記録整理係 計画管理係
 Q13). チームで学ぶということについて近いものを1つ選んでください。
 経験がある。得意 未経験。がんばろうと思う。なんとも思わない。
 経験がある。苦手。未経験。本音を言うとうまくさそう。
 Q14). あなたのパソコンでのインターネットの利用度を教えてください。
 よく使っている ときどき使っている 使っていない
 Q15). あなたのケータイの利用度を教えてください。
 よく使っている ときどき使っている 使っていない
 Q16). 自分の長所と、授業への期待をなんでもお書き下さい。
 Q17). (略)

12

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.



13

添付資料③「フィードバックシート」

ネットビジネス フィードバック用紙

会社名: _____
 所属部署: _____
 氏名: _____

メール: _____へのフィードバック

プレゼンテーションの評価 (数字が大きいほど高評価)


理解しやが/視感だった	4	3	2	1
内容・手順や・画面の表現、アカウントなど	4	3	2	1
説明資料の内容、利用方法	4	3	2	1

参考になった点

もっとこうしたらいいかなと思った点

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

14



添付資料④ フィードバックシートの例

<p>参考になった点</p> <p>イラストを使、ママのわかってるから、</p>	<p>参考になった点</p> <p>説明も内容もよかった。言葉もわかってるから。</p>
<p>参考になった点</p> <p>なんとなく知っていたら、わかっただけ</p>	<p>参考になった点</p> <p>PCをうまく使えていた。</p>

Copyright 2006 NETMAN Co.,Ltd. All Right Reserved.

15